

①馬の消化生理について

馬「馬」という動物は…

- 草食動物である
- 睡眠時間は3-4時間
- それ以外の約20時間は草を採食
- 消化効率の悪い草を盲腸内で脂肪酸に変える



馬のエネルギー源

エネルギー：生命を維持し、運動する燃料

炭水化物

すぐにエネルギーとして利用できる。
「糖質」と「繊維」

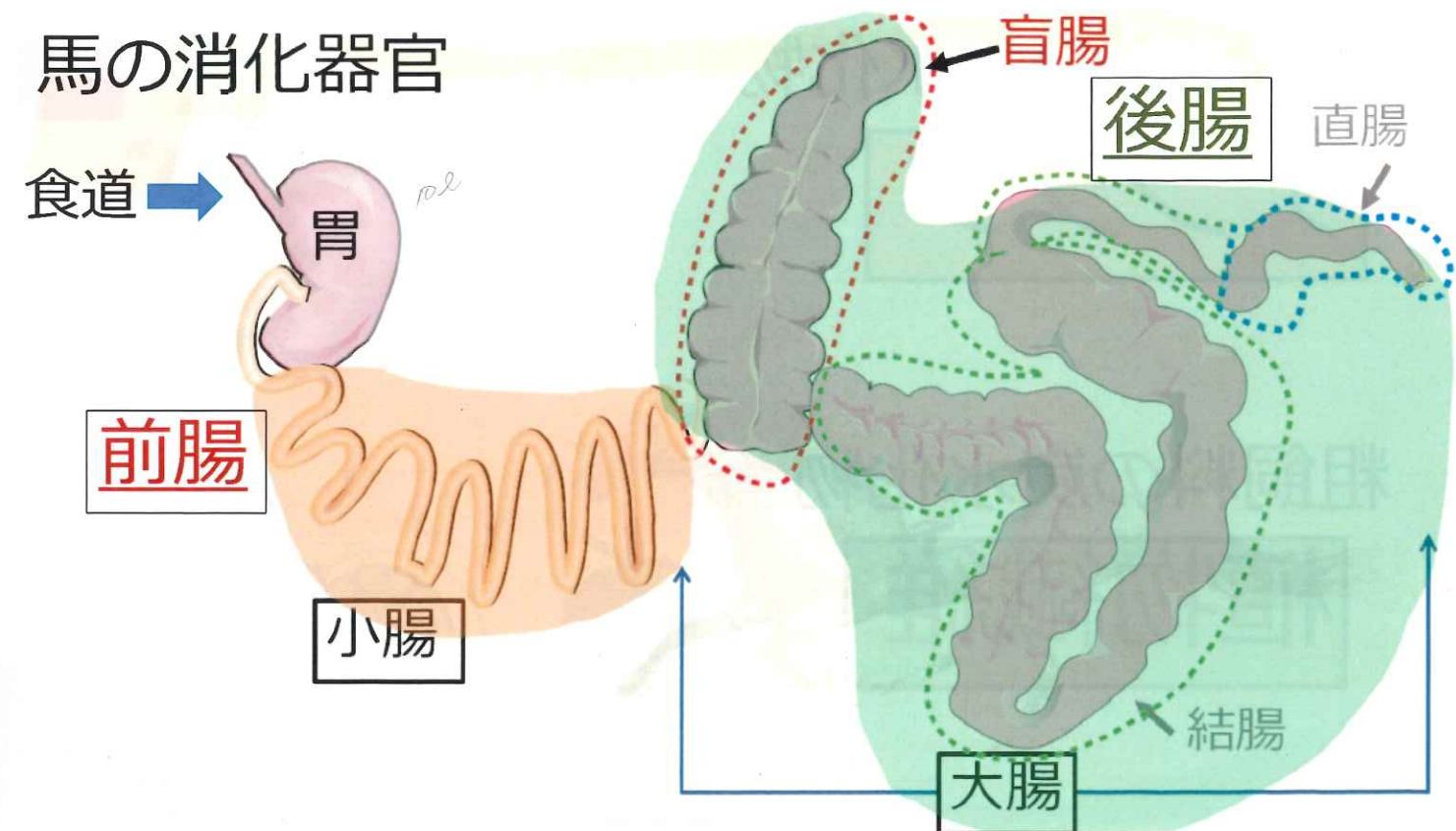
脂質

炭水化物の2倍以上のエネルギーを供給する。
馬の飼料中には2～5%しか含まれていない。

タンパク質

筋肉の合成や体成分の維持のもとになる。

馬の消化器官



馬の消化生理とエネルギー給与

①馬は草食動物である！！

最低でも体重の1%以上/日 の粗飼料を給与することが重要！

②濃厚飼料給与はある程度はやむえない

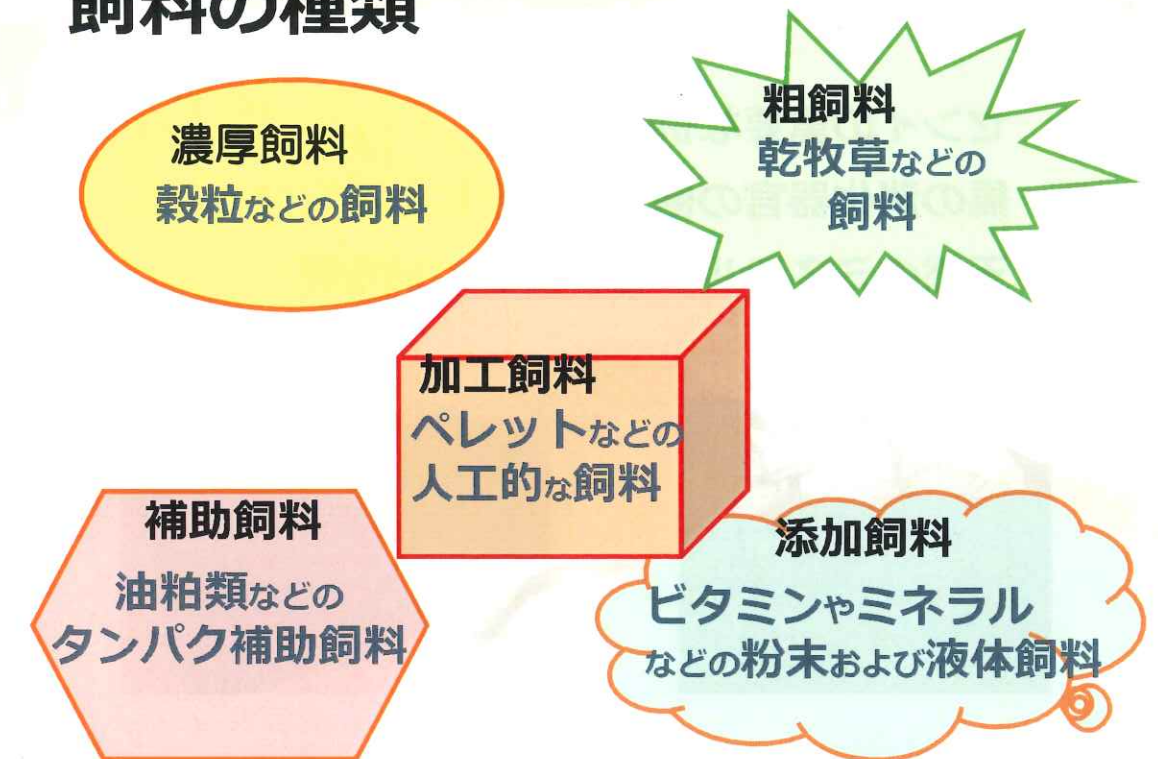
③飼料は1日数回に分けて給与する

理想は朝・昼・夕・夜の4回以上

②馬の飼養管理

19

飼料の種類



21

炭水化物の源となる2つの飼料グループ

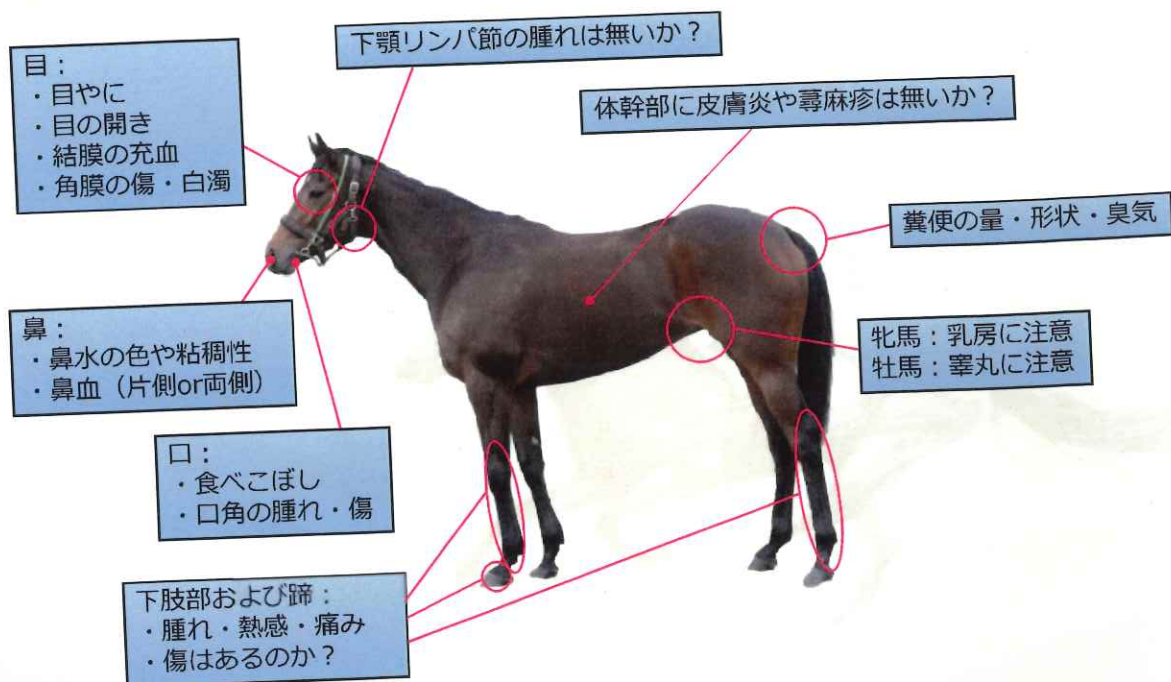


20

22



日常の馬体チェックポイント



57



疾病別の異常ポイント

- **運動器疾患**
跛行、関節等の腫脹、負重変化、姿勢異常
- **呼吸器病（感染症）**
外貌→元気消沈、発咳、鼻汁、浮腫（循環障害）
バイタル→発熱、呼吸速拍、心拍増
- **消化器病**
外貌→食欲不振、元気消沈/悶絶、腹部膨満・注視
バイタル→心拍増、呼吸速拍
その他→排糞異常（便秘/下痢）
- **神経症状**
外貌→元気消沈、震戦、狂騒、異常歩様（腰菱症状）

58

馬インフルエンザとは



馬インフルエンザウイルスの感染によって起こる
伝染性の非常に強い急性の呼吸器疾患です。

■ 症状は、**40℃前後の発熱、元気・食欲の低下、乾性の咳、鼻汁**などです。

■ ウイルスは、**感染馬から咳などによって**空気中に飛沫として排出され、**周囲の馬に短時間で感染**が拡大します。

■ 家畜伝染病予防法で**届出伝染病**に指定されています。

■ 2025年4月、**17年振り**に、**熊本県・北海道**の重種馬に発生が認められました。熊本県では、**馬術大会が中止**となり、帯広競馬場（ばんえい十勝）では、**競馬開催及び能力検査が中止**となりました。

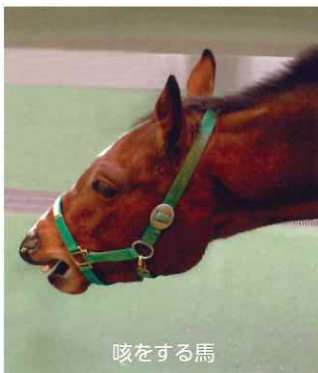
■ 輸入検疫において、2018年には**76頭**、2022年には**181頭**が摘発されています。

■ 海外においては頻繁に発生が認められ、**嚴重な警戒を要する伝染病**です。2024年には、**アメリカ、カナダ、イギリス、フランス、ドイツ、ベルギー**で**発生報告**があります。

（軽種馬防疫協議会「国内外における伝染病発生状況」）



粘ちょう性鼻汁



咳をする馬

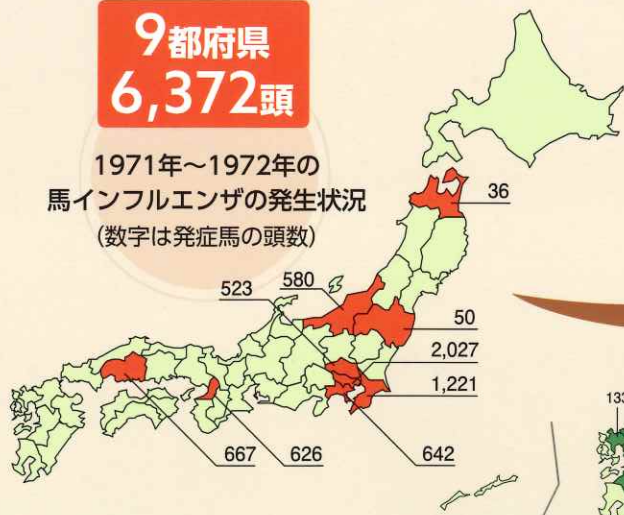
国内での馬インフルエンザの発生状況

1971年～1972年の発生状況

- ▶ 1971年12月に導入した輸入馬5頭が感染源とされ、馬の移動に伴い発生が拡大し、翌1月までの39日間で、**9都府県**の**26か所**の競馬場や乗馬施設などで**6,372頭**が発症しました。
- ▶ 当時、馬インフルエンザワクチンは接種されていなかったため被害が拡大し、関東地区の競馬開催がおよそ2か月間中止されました。

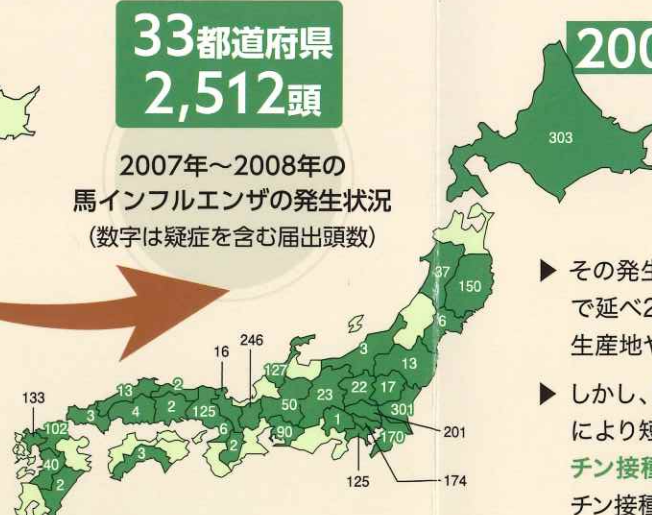
9都府県
6,372頭

1971年～1972年の馬インフルエンザの発生状況
（数字は発症馬の頭数）



33都道府県
2,512頭

2007年～2008年の馬インフルエンザの発生状況
（数字は疑症を含む届出頭数）



2007年～2008年の発生状況

- ▶ 2007年8月にJRA施設で最初に感染が確認されてから、2008年7月1日の発生を最後に終息するまでの間、**33都道府県****2,512頭**（疑症含む）の届出がありました。
- ▶ その発生期間中、JRAでは2日間、地方競馬では7主催者で延べ25日間、競馬開催が中止となり、また、地方競馬、生産地や乗馬施設などでも感染が確認されました。
- ▶ しかし、前回の流行と比較すると、馬の移動頻度の増加により短期間で広い地域に感染が拡大しましたが、**ワクチン接種の実施により発症率が低く症状も軽度**で、ワクチン接種の重要性が改めて示されました。

インフルエンザが発生したら

隔離 消毒 移動制限

感染馬（疑似馬を含む）の
速やかな隔離
管理も別に行う。



施設外への
馬の移動を中止。

消毒を徹底！

- ⚠ 厩舎、馬具、車両等の消毒強化
- ⚠ 関係者の施設外の馬との接触を制限する
- ⚠ 衣服の消毒・着替え、手指の手洗い等の実施



厩舎の消毒



車両の消毒



車両の消毒

- **発生の拡大防止には初期の対応が非常に重要**です。感染を疑う症状を呈した馬を発見した際には、速やかに獣医師の診察を受け、最寄りの家畜保健衛生所へ連絡し、指示を受けてください。
- 消毒方法等については、**飼養衛生管理ガイドブック（馬編）**を参照ください。



2道県
36頭

2025年4月～の馬インフルエンザの発生状況
（数字は届出頭数）



2025年4月～の発生状況

- ▶ 2025年4月、熊本県の重種馬飼養農場8戸**23頭**で発生が認められました。さらに、北海道の帯広競馬場（ばんえい十勝）（重種馬）で3頭に発生が認められ、5月8日までに、北海道十勝地方で合計**13頭**の陽性が確認されています。
- ▶ 発生場所では、感染馬の隔離、飼養馬の移動自粛、ワクチン接種指導、施設・器具の消毒等によるまん延防止対策が取られました。また、熊本県では、4月の馬術大会が中止となり、帯広競馬場（ばんえい十勝）では、4月25日から5月12日まで競馬や能力検査が中止となりました。